

科目名	生 理 学【理学・作業】					開 講 キャンパス	神 埼
担 当 者	熊 本 栄 一・八 坂 敏 一						
開 講 年 次	1	開講期	前期	単位数	2	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	最初に、末梢神経系や中枢神経系の働き、そして、体の外部や内部の環境の情報を神経系に伝える感覚について講義する。次に、血流を介して情報を伝え環境変化に適応するのに働く内分泌についても講義する。さらに、酸素・栄養素を運搬する血液、栄養素を摂取する消化・吸収の仕組みを講義する。最後に、エネルギーを生成する生体反応、体熱の産生・放散、老廃物を体外へ排泄する仕組みを講義する。以上よりヒトの生命の適応機能や維持機能を理解させる。						
授 業 の 到 達 目 標	1) 末梢神経系や中枢神経系の働きを理解する。 2) 感覚の働きを理解する。 3) 内分泌の働きを理解する。 4) 血液の組成を理解する。 5) 消化・吸収の働きを理解する。 6) 体温の調節作用を理解する。 7) 腎臓の働きを理解する。						
学 習 方 法	講義						
テキスト及 び参考書等	テキスト：黒澤美枝子・長谷川薫、編集『コメディカルのための専門基礎分野テキスト「生理学3版」』（中外医学社、2012年）。必要に応じてプリントを配布する。						
評 価 基 準 ・ 方 法	到 達 目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	評価割合%		
定期試験	◎	○			80		
小テスト等							
宿題・授業外レポート							
授業態度			○		10		
受講者の発表							
授業への参加度			○		10		
その他							
合 計					100		
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第 1 週	神経系の一般的な働き (熊本)						
第 2 週	中枢神経系の働き－脊髄・脳幹・間脳・小脳・大脳 (熊本)						
第 3 週	自律神経系と自律機能の調節－Ⅰ (八坂)						
第 4 週	自律神経系と自律機能の調節－Ⅱ (八坂)						
第 5 週	体性感覚と内臓感覚 (八坂)						
第 6 週	特殊感覚 (八坂)						
第 7 週	ホルモンの種類とその作用－Ⅰ (八坂)						
第 8 週	ホルモンの種類とその作用－Ⅱ (八坂)						
第 9 週	血液Ⅰ－成分とその性質 (熊本)						
第 10 週	血液Ⅱ－凝固と輸血 (熊本)						
第 11 週	消化と吸収Ⅰ－口腔・食道・胃の働き (熊本)						
第 12 週	消化と吸収Ⅱ－小腸の働き (熊本)						
第 13 週	消化と吸収Ⅲ－大腸・肝臓の働き (熊本)						
第 14 週	エネルギー代謝と体温調節 (八坂)						
第 15 週	尿生成と体液調節 (八坂)						
第 16 週	まとめ（試験を含む） (熊本、八坂)						
備 考	筋、運動、循環、呼吸は重要な生理機能であるが、これらの内容については、この生理学科目とは別の科目で学習する。						